



乾期の日差しは日に日に強くなり、日中の気温は40℃に届きそうですが、夜温は20℃を下回り、スイカ等果菜類は豊作のようです。灌漑水のない天水田地帯では、緑豆、ケツルアズキ、ゴマ、トウモロコシ等の畑作物が栽培され、水稻よりも多くの収入を得ている農家もいます。プロジェクトでは昨年雨期に生産された種子が農業局の検査に合格し、CSとして多くの農家に利用されるよう、精米業者を取り込んだCSバリューチェーンの構築を図っています。CSを使用した「儲かる」コメづくりを、皆が体感できるように試行錯誤の日が続きます。

2019年度第5回普及員研修（パテイン、シュエボー） 今年度研修コースの締めくりとなる第5回普及員研修では、「各郡で実施された普及活動とCS生産の振り返り」をテーマに各郡の種子担当者に発表してもらいました。大多数が、パワポを使ったプレゼンは初体験とのことでしたが、随所に工夫がみられ、期待以上の出来でした。各郡の現状・課題の共有が進み、意見交換も活発に行われました。聴衆全員で発表者のプレゼンスキルを採点。上位得点者には賞品が授与されました。シュエボーではJICAミャンマー事務所の飯塚所員が「シュエボー地区におけるJICAの実施案件と連携」をご紹介いただきました。



乾期のCS生産 エイヤワディーはミャウンミヤ郡を中心にポンプ灌漑による水稻栽培が行われています。重力灌漑が行われているシュエボー郡は灌漑工事のため今年の栽培ができません。

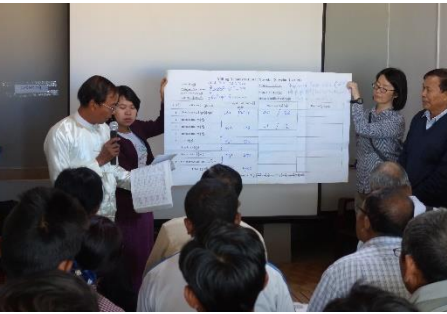
精米デモンストレーション CSを使用したコメ生産の収益性は、赤米の混入が無く、整粒歩合が高いことを、精米業者、仲買、コメ生産農家に体感してもらうことを目的に、CSから生産されたコメ約2tを精米しました。残念ながら、収穫が遅れたり、収穫前の降雨に見舞われた籾米は、胴割れが多く混じていましたが、精米業者をはじめ、参加者はCSの利点を充分理解してくれたようです。



精米デモの結果発表 整粒歩合は80%を超えるところと、50%に満たないところと大きな差ができました。参加者はポストハーベットの重要性を改めて認識していました。

シュエボー県の種子センター 今年の7月完工を目指して、円借款事業により建設中の種子センター。当プロジェクトは施設の有効活用を念頭に、運営、操作・維持管理の支援を行います。

乾期の水田裏作 雨期作のコメの収穫が終わる12月、灌漑の無いエイヤワディーの天水田地帯では、緑豆やケツルアズキが栽培されます。2月にはこれらの畑作物が収穫期を迎えます。



巻頭にしたスイカですが、今年は北部シャン州と国境を接するお客さんの引き合いが悪く、販売の方は不振が続いているようです。ミャンマー農業の国境貿易依存は、コメ農家以外にも多くの農民の生活に影響を与えています。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)